

# ニュージーランド・ホリダイ その5

竹原 宏

## 5 蹄 耕 法



ロトルアの開拓地  
(蹄耕法で草地を造っている)

ニュージーランドは、世界で1番草作りのうまい国とされている。最近10年間に、300万ヘクタール(日本の水田面積くらい)の草地を造ったといっている。我国では、草地を造るのに、手開墾をしたりトラクターを使うが、あちらでは飛行機で播種をして家畜(主に綿羊)で耕すのである。これを称して蹄耕法(Hoof Cultivation)という。さいわいに、私達はこの実状をロトルアの開拓地で具にみる事ができた。

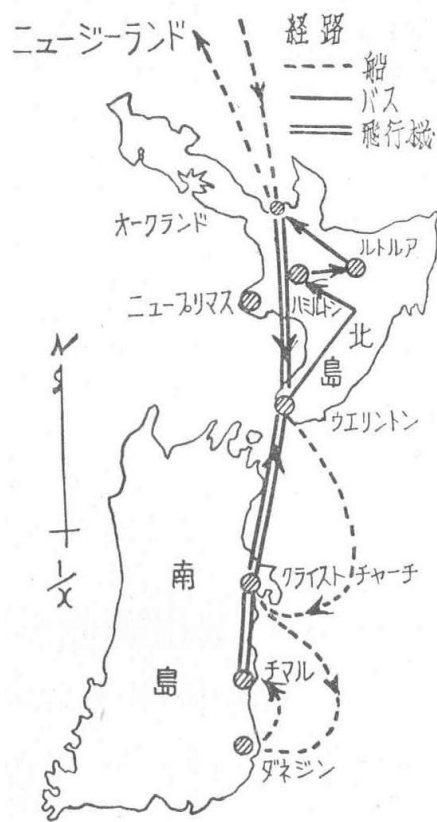
ロトルアという所は、北島の北東部にあり、山の中の温泉町である。近くにタウポー湖もあって、この辺一帯は避暑地、観光地として賑わう所である。また、このあたりには「マオリ」という先住民族が住んでいる所としても有名でもある。この地帯は約100年前に火山の大噴火があり、山は焼けただれて丸裸になったそうであるが、現在では一抱えもある松や雑木が茂り、昼なお暗い原生林となっている。国土開発庁が、この山林おそらく岡山県の面積くらいと思われた)を開拓していた。開拓地は草地造成を行って牧草ができると綿羊を放牧する。また農家も建て、簡易舗装道路もつけ、入植者が何不自由なく生活ができるように一切の施設をつくる。さらに3

年間この農場を国が経営して、立派に採算がとれる見込みがついてから、家畜も農具も揃えて入植者に手渡すのである。

いわゆる農場の建売りである。人造池の辺りに点々と見える赤屋根の別荘のような文化住宅が、開拓者のものであると聞き、眼を見張った次第である。

草地を造るには、大型のトラクター2台が太いチェーンを引張って、1台は山の中腹を、1台は谷を走る。チェーンに引っ懸った巨木はどんどん根から倒されてゆく。倒された木は、翌年春に火入れをして焼いてしまう。もったいない話であるがニュージーランドには材木は無尽蔵にあるらしい。焼山に施肥と播種を行う。この施肥と播種は小型飛行機(翼の長さ10メートルあまり、重量650キログラムで機種はいろいろあるとの事)を使う。地上50メートルくらいの低空を飛び、1日に50ヘクタールくらいの施肥と播種ができるとの事であった。牧草が10センチくらいに伸びた頃に綿羊を入れる。綿羊は丈の高い草から喰うので、雑草の駆除に有効である。また牧草を踏みつけて表土を硬くして、根の活着をよくするためにも導入の時期を早くすることが大切だといっていた。

開拓地を1、2、3年目という順序で見せてもらったが、どの牧草地も立派な牧草が生えていた。ある所では、灰山礫の石コロの中に牧草が生えていた



## 岡山畜産便り 1965.06

し、河原のような砂礫の中にも立派に牧草が生え、  
緬羊が数千頭も放されていた。草作りの技術の優秀  
さに驚歎した次第である。そして、牧草も合理的な  
放牧によってはじめて育つものであるという事をつ  
くづく感じさせられた。

我国にも牧草地が造成されているが、造成して数年  
経つと草地が退廃していくのは合理的放牧利用がな  
されていない為ではなかろうか。表土の踏圧、糞尿  
による施肥、採食による適度な草丈の維持、これら  
の技術が放牧という簡単な事柄の中に含まれている  
ようである。牧草を刈取り利用する場合は、これら  
の1つ1つの技術が人工的に草に与えられなければ  
ならないとも思った。

パステュー（草原）といえば大平原を思い出すよ  
うな言葉であるが、このロトルアは我国とそっくり  
の地形である。峻嶒な山も、頂上まで牧草が生えて  
おった。蹄耕法でやれば、たとえ機械が入らないと  
ころでも立派な牧草地になるのである。

最近、畜産は山に登れという言葉聞くが、山に  
登るために学ばねばならぬ技術は、蹄耕法と放牧技  
術ではあるまいか。